

第3学年

学年通信

練馬区立上石神井中学校
令和6年6月5日(水)

No.8 発行者：石坂恵理

修学旅行が終わりました！

天候にも恵まれ、長崎修学旅行が終わりました。これまでの2年間、学習テーマ「生きる」に基づいて積み重ねてきた学習の集大成として、実りある3日間となりました。生徒の皆さんが書いた振り返りアンケートの中から、いくつか紹介します。(後日、まとめを配布しますので、ぜひ保護者の方もお子様と一緒に読んでください。)

【1日目のガイドツアーで印象に残ったこと】

- ・浦上天堂の被爆のマリア・・・原爆のすさまじさが伝わってきた。
- ・浦上天堂から鐘が落ちたこと(アンジェラスの鐘)。
- ・原爆の犠牲になったのは日本人だけではない。多くの人の日常が、一瞬にして奪われたこと。
- ・如己堂が想像していたよりも小さかったこと。自分自身も被爆したのに、治療に専念した永井博士のこと。
- ・平和の泉が建てられた経緯(水が飲みたくても飲めなかった)。

【平和のセレモニーの感想】

- ・「79年間日本は戦争を行っていない」という言葉に、79年間という時の流れの中で、人々が平和を守り続けてきたという事実がある。これからは私たちが受け継ぐ番だと改めて思った。忘れてはいけないと思った。
- ・学年全員で作った千羽鶴を献上できてよかった。いつの日か、平和が当たり前になってほしい。
- ・みんなの思いがこもったメッセージ、みんなで作った千羽鶴・・・この学年全員で取り組めたことがよかったと思う。
- ・今まで積み重ねてきたことを、ひとつの形として発信できた。
- ・班行動で疲れていたが、言葉に力があって、すごく感動した。これが3年間のまとめなんだと感じた。

【これまでの2年間の学びが修学旅行にどのように繋がりましたか】

- ・事前学習で学んだことも生かされたけれど、これまでの2年間、先生と生徒、生徒同士で築き上げてきた信頼関係が大きいと改めて感じた。入学したときから、長崎修学旅行が始まっていたと思った。
- ・2年生の校外学習でユニセフハウスへ行き、平和な未来を築くための課題がたくさん残っていると学んだ。今回長崎へ行き、平和が続くよう祈ること、自分が知ったことを伝えていくことが大切だと改めて思った。
- ・1年生のときの「東京大空襲の体験談」2年生の都内巡り(平和祈念資料館)、国語の授業で学んだ「壁に残された伝言」の3つが、特につなげたように感じた。
- ・原爆資料館に展示されたものを見たとき、東京大空襲の体験談が思い出された。戦争があったことを、決して忘れてはいけないと思った。
- ・2年生の校外学習で平和祈念像の原型に触れていたが、その大きさや迫力に驚いた。また、課題図書「夏の庭」をみんなで読み、今を生きている尊さを感じたことを思い出した。
- ・東京大空襲の体験談、沖縄の地上戦のこと、第五福竜丸展示館で知ったことなど、これまでの学習の全てが繋がっていることを実感した。

【スローガンに「未来の社会へ繋げるピース」とありますが、自分が学んだこと、知ったことをどのようにつなげていきたいと思いませんか?】

- ・自分がいつか親になったとき、一番身近にいる自分の子供にまず、伝えていきたいと思う。
- ・近い将来、戦争を体験した人がいなくなる日がきます。でも、絶対忘れてはいけないことだと思います。広島、長崎に原爆が投下された日、東京大空襲の日、沖縄慰霊の日など、そのときどきで、自分が知ったことを伝えていきたいです。
- ・忘れないこと、身近な人に伝えていくことが、平和な未来へとつながるのではないかと思います。

